

## 第2回和歌山市子ども・子育て会議 議事要旨

日 時：平成25年10月3日（木）午後1時30分～午後2時30分  
場 所：和歌山市勤労者総合センター6階文化ホール

出席者：委員 17名

担当課等

福祉局長 こども未来部長

子育て支援課 こども家庭課 保育課 こども総合支援センター 地域保健課

教育政策課 学校教育課 教職員課 青少年課

### 1 開会

局長： 本日はお忙しい中、第2回和歌山市子ども・子育て会議にご出席いただきありがとうございます。前回の会議において示させていただいたニーズ調査案について、たくさんのご意見をいただきました。本日はそのニーズ調査案について、ご審議のほどをお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

### 2 議事

#### (1) ニーズ調査について

事務局： <資料1・2（就学前）に基づき説明>

会 長： ご質問、ご意見等お願いします。今回、随分丁寧にご意見をいただいていると感じます。

委 員： 若竹学級について、教育委員会が所管であるという違いはありますが、あしのは学級というクラスが別にあるということは認識をしていただきたいと思います。また、母親子どもクラブに指導員などを配置して、全市的に子どもたちを育成していけるような組織として整えていくことも考えていくべきではないかと思っておりますので、「市内全域に放課後自由に利用できる体制になっていない」という理由でバツサリ切り捨てるのはいかがなものかと感じていることを伝えておきたいと思ひます。

会 長： ニーズ調査の文言を変更するのではなく、認識すればよろしいですか。

委 員： 事務局の方で決定していただければいいと思ひます。

委 員： 現在、就学前の子どもを育児していて、このニーズ調査を試みたところ、集中して読み回答する時間がありませんでした。実際に回答してくださる方はそれだけのニーズがあると思ひますが、本当に困っておられる方の中には意見を述べられない方もた

くさんおられるということと、回答がすべてのニーズではないということを感じます。

会 長： 委員のお立場である子育て中の母親としてのご意見を、たくさん反映していただきたいと思います。

事務局： さまざまな方の意見を聞く機会として、子育て中の方が集まるつどいの広場や地域子育て支援センター等で意見を集め、その意見を反映していきたいと考えています。

委 員： ニーズ調査中の、教育・保育の事業の利用理由として「子育てに困難を感じており、子どもを預かってほしい」という理由の追加はせず、「その他」で対応するとのことでありますが、アンケート上は仕方がないかもしれないですが、現状として、母親が大変な思いで子育てをしているのが汲み取れるようにしていただきたいと思います。

事務局： ニーズ調査以外のところで意見を把握したいと考えています。平成27年度以降は、保育の必要なすべての3～5歳の子どもに良質な教育・保育を提供するという一方で、幼保連携型認定こども園という施策もありますので、そこでの対応も可能になります。0～3歳の子どもについては、一時保育などの施策も含めてこれから議論していきたいと考えます。ニーズ調査の内容については、国の方で統一的なものが出てきており、設問内容は変更不可と提示されているものもあるため、和歌山市でもこのようなニーズ調査になっています。設問数についても国からの指針があり、なかなか変更できないのが現状です。

会 長： 保育所の入所条件は就職活動中でも、そのために勉強中であってもよいと緩和されたので、期待ができます。

委 員： 障害のある子どもについての設問が全くないが、国はそのような立場の方の状況を把握しようとしないのでしょいか。

会 長： それは、地域で行う子ども子育て支援で地域のニーズにしたがっていくものであるもので、すべて国が示す通りでやっていくという訳ではないのではないのでしょうか。このニーズ調査の結果を国が吸い上げて、国に気づきを持っていただくことにこの会議の意味があると感じます。

委 員： 例えば、身体が不自由で、子どもを育てていくことに困難がある母親等のニーズは汲み取れないのではないのでしょうか。ハンデを抱えているそのような子どもは施設に行かざるを得ないこともあるのに、「地域に戻す」ということで地域が面倒をみればよいという国等の考えであるならば、問題があると思います。今後どのようにしていくか考えるべきだと思います。

会 長： 今回のニーズ調査で、いろいろな実態がでてくると思われます。もっと掘り下げるべき内容もあろうかと思ひますので、和歌山市としてこれから対応を考へていきたくと思ひます。

就学前児童保護者用の調査票についてはこれでよろしいですか。

<異議なし>

会 長： それでは就学児童の調査票についてお願いします。

事務局： <資料1・2（就学時）に基づき説明>

会 長： 先ほどの就学前のニーズ調査の内容と重なっている部分もあります。ご意見があればお願いします。

委 員： 調査数について、就学児童保護者1,000件との説明がありましたが、該当する子どもの家庭の割合としてはどのくらいですか、就学前の子どもの割合も合わせて教えてください。

事務局： 割合を基に調査する方法も考えられるのですが、次世代のニーズ調査時に就学前2,000件、就学時2,000件の調査を行い、それと合わせた調査数も検討したり、また、今回は就学前の子どもの対象としたニーズ調査に重点がおかれていますので、就学前のみに移行しようかとも検討した結果、やはり次世代の進捗状況やその時の調査内容と今回の子育てに対するニーズを比較する形にしたいと考えました。そのため、次世代計画のニーズ調査配布数をもとに就学前の子どもの3,000件、就学児は1～3年生に特化して1,000件に変更したという経緯があります。今回は割合を基に件数を決定したわけではなく、次世代からの流れと他の中核市の情報を合わせたかたちで決定しました。

会 長： 他にご意見等ないでしょうか。就学児童保護者用調査票については、この様でよろしいですか。

<異議なし>

会 長： それでは小中高生用の調査票について説明をお願いします。

事務局： <資料1・2（小中高生）に基づき説明>

会 長： ご意見等お願いします。

委員： 問11で、アンケートは小学校5年生対象であるのに、若竹学級はほとんど利用していないので削除してはいかがでしょうか。

事務局： 一部6年生まで対象にしているところもあります。また民間の学童保育所についても、受け入れているところがあると聞いていますので回答として残しています。

会長： 他にご意見等ないでしょうか。小中高生用調査票についてはこの様にすすめてよいでしょうか。

<異議なし>

## (2) その他

事務局： 小・中・高校生のニーズ調査票で、もう少しわかりやすい言葉にした方がよい部分は教育委員会と相談し、調整後アンケート調査に移りたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

会長： 長時間のご検討ありがとうございました。それでは、調査がいよいよスタートになりますので、皆様よろしく願いします。

## 3 閉会